

職員による自己評価

A環境面

トイレや手洗い場など、利用者様が必ず通る動線上に、撤去できない段差がある。クールダウン室を設置したことで、聴覚過敏の利用者様には適切な配慮ができた。

B児童への支援内容

支援の開始前には必ず、その日の支援内容や活動のねらいを全職員に共有するとともに、利用者様の特性も再確認し、役割分担している。終礼時にも必ず振り返りを行い、各自の気付いた点を全職員で共有している。プログラム決定の際には、職員全体に意見を募るとともに、企画が偏ることの無い様、ローテーションで立案している。

C関係機関との連携

担当者会議には出席し、変化が生じた場合、関係機関と連絡を取り合う体制が出来ている。学校との連携においては、通常は保護者様を通じて情報共有することになっているが、お迎えに行った際、担任の先生からその日の様子をお伺いしたり、デイでの様子をお伝えしたりできている。自立支援協議会へは、役職にとらわれることなく、担当者を送り出す事が出来ている。

D保護者への説明責任・信頼関係

共働き家庭やひとり親家庭が増え、保護者の方と直接会えない事が増えているが、連絡帳を通して、ご家庭での様子をお伺いしたり、お悩み等記載していただけたりと、密なかかわりが出来ている。時間外でもメール等の手段で連絡を取り、緊急時でも幅広い手段で対応できるようになっている。

E非常対応

避難訓練の重要性を全職員が認識できている。毎月想定を変えて実施する事で、子どもたちの対応力が身に付いてきている。

保護者による評価

A環境面

建物自体はエレベーターがない。

B児童への支援内容

支援計画は、保護者のニーズを聞き取り、作成したものになっている。活動プログラムの準備なども、忙しい中、よくやってくれていることが感じられる。

行き渋りや疲れなどで、デイに行くのが億劫になる事があっても、電話で様子を聴いて誘ってくれたり、休校日であれば、短い時間でも利用してもよいと提案してくれたり、柔軟な対応をしてくれる。

障害のない子との交流は難しい状況が続いている。

C事業所からの情報発信

日頃から連絡帳や電話で子どもの状況を伝えあっており、子どもの状況や課題について共有できている。

面談では、育児や進路に関する助言も受けられ、現実的かつ客観的な視点で子どもを見つめ直す機会となっている。

仕事をしていて、営業時間内に電話したくてもできない事が多いのだが、メールなどでも対応してくれることで、細かく連絡が取り合える安心感がある。

懇談会は、平日の昼間に行われることが多く、出席できない。

D非常対応

避難訓練は毎月行われている。

緊急時対応マニュアル等の各種マニュアルについては、開示されているとは言えない。

事業所内での分析

【共通点】

・支援については、保護者の方と緊密に連絡を取り合い、課題やニーズを把握した上で、個別支援計画を作成する事が出来ている。

保護者の方へ、現実的かつ客観的に、お子様への接し方や進路を提案するように心がけている。

活動プログラムは、準備できたものを提供できているというご意見を多く頂けた。

・関係機関との直接交流は、放課後児童クラブ・就学前関係機関・成人事業所との間で課題が残る。

・訓練等の実施を毎月行っていて、保護者の方にもしっかりとお伝えできている。

【相違点】

・地域交流や障害のない子どもたちとの交流を目的として、子供たちが多く集まるプレイパークへの参加を年に数回企画しており、職員間では共通意識を持って取り組んできたが、保護者の方へは説明が不足していた。

分析・検討してみても…

事業所の強み

小学校1年生から高校3年生まで在籍されており、学校や地域の枠を超えてかかわりを広げていらっしゃる。異年齢の集団だからこそ、高校生の姿を見た中学生が『〇〇さんと同じ学校に通いたい!』と志望校を決めるなど、具体的な将来像として先輩の姿を見ている。年下の子は年上の子を見本とし、年上の子は年下の子のお手本となるよう子どもたち自身で気付いて活動出来る場所となっている。

職員は、児童の情報を共有できるように毎日支援前に、一人ひとりの特性やポイントを、その日の活動プログラムに照らし合わせて確認している。同じプログラムに取り組みながらも、皆が成功体験を積んで帰れるよう、目標設定をお子様によって変え、きめ細かい支援を心がけている。幅広い年齢やニーズに対応するため、個別活動・グループ活動・全体活動と、提供の仕方にも工夫している。

ご家族との間でもニーズを共有し、育児のパートナーとなれるよう、様々なツールを用いて、関係を深めることに重点を置いている。

事業所の改善点

就学前受入れ機関および成人事業所への直接訪問は行えていない。キッズクラブさんには、お迎えまでお世話になっている利用者さんも多くいらっしゃり、引継ぎ等は連携してスムーズに行えている一方、活動を共にするところまでは至っていない。

緊急時などの各種マニュアルについては、契約の際や懇談会などで、保護者の方へしっかりと説明していく。

事業所の改善への取り組み

子どもたちに安心して利用していただくため、研修を重ね、特性への理解を深めた専門性の高い職員の育成に努めます。活動プログラムにおいても、職員間でPDCAを繰り返すことで、より効果的な提供方法を追及してまいります。

就学前機関への訪問は、保護者の方にご了解をいただいた上で、支援の継続性の為に行っていきたいと考えています。

成人事業所への訪問は、まずは近隣の施設訪問から調整していきたいと思っています。

障害のない子どもたちとのかかわりについては、今年度も近隣の公園やプレイパークへ出かけ、積極的に輪を広げてまいります。

非常時の各種マニュアルにつきましては、新規契約の際や懇談会で、保護者の方にご説明していきたいと思います。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

この度は、自己評価へのご協力ありがとうございました。

保護者の皆様から頂きましたご意見を、事業所内で共有し、改善しながら、より良いサービスの提供に努めて参ります。

ハートリンクに来て下さるお子さまの成長に、少しでも関われることを嬉しく感じるとともに、大きな責任も感じておりますが、ご家族のみなさまにご助言をいただきながら、子どもたちを温かく見守ってまいります。これからもどうぞよろしくお願い致します。

事業所名：ハートリンク港南台

担当者：藤本 みち